ウェブ公開用資料
へっちゃらネット

2014/11/15(土)13:00～17:00

オープンアトリエ　ちいさな鳥　参加 12 名

市民と政府の TPP 意見交換会
愛知・岐阜実行委員会（へっちゃらネット）主催　TPP 勉強会自主講座
農からつむぎ出す“へっちゃら”なつながり

◆13：00　はじめに　～進行：石川さんより

参加予定者が 2 名ほど遅れて来る様子だが、時間になので開始。

第 3 回の自主講座、テーマは（上記のとおり）「農からつむぎ出す“へっちゃら”なつながり」。今回は、ゲストの可児郡御嵩町で永谷農園を営んでいる永谷香のお話を参考に、「人と人との信頼で築く世の中」をテーマにし、我々「へっちゃらネット」の目指す世の中について話を進める。

終了後は懇親会もあるので、お時間ある方は是非どうぞ。それでは、まずは TPP に関する報告から。

◆13：10　TPP 交渉の現状　～西井さんより

本来ならば、TPP 交渉については神田さんの担当のところ、ピンチヒッターのつもりでの情報提供。

日頃、つきっきりで TPP 交渉について監視している訳でなく、みんなから集まる情報をモニターしている程度なので、(持っている情報は) 皆さんと変わりないかもしれない。それらの情報を整理してみたが、足らないところがあれば、皆さんのほうで補足をお願いしたい。（A3 横置き 2 ページ「TPP 関連醸成のアップデート」資料配布）

◎最近の情報

日本政府が TPP 交渉に加わってから 1 年以上経つので、いろんな情報は耳にしているところではあるが、今週も閣僚会合、主席交渉間レベルで 2～3 ヶ月に一度の会合が行われている状況で、マスコミは、妥結間近と言いながら、妥結には至っていない。ここでは、9 月以降の情報をまとめてみた。

・9/24 に甘利大臣とフロマンとの会談を持った。それまでも会談を持っていたが、このときはアメリカまで飛んでいって自動車と農産物についての協議ということで、「かなり動きがあるのでは？」とマスコミも報道した。新たな案を提示するということが報じられていて、それはなぜ？というところは、農産物の妥協点が見つからないということだった。結局このときも合意には至らなかった。（米国 NGO・パブリックシチズンのロリ

ワラックさんの記事から）

・この時は、日本が設けるセーフガード（一定以上をストップするという）基準からかなりレベルを下げたにもかかわらず、合意に至らなかった。これは、中間選挙で得点を挙げたいアメリカ側が譲歩を応じなかったからか？これが関係した程度は分からないが、状況的にはそういった感じ。

・その後、シドニーで閣僚会合。ここでも閣僚の共同声明が出されたのだけれど、「アクセス交渉を進展させることが出来た」とは言いながらどういったことかは分からない。交渉は進んではいるが、努力目標の意思表示を行ったという様子。

・（TPP に反対する人々の運動の）近藤さんによると、「再び越年交渉の様相。首脳会議に 12 月にやるのでは？と噂される」とのこと。とは言え、情報を出してこないので、ある日、突然妥結ということもあり得るので、予断は許さないとも。

・12 月の APEC 首脳会合、それに先立って 11 月 9 日に首脳会合。10 日の声明を資料に記した。しかし、これも合意には至らなかった。日本とアメリカの主張が対立して合意に至らないので、他の国々は早く合意に進んでほしいと日米の様子を眺めている形。首脳声明だと協定を妥結することが最優先であるという意思を確認したという形。解決策を求めるためには、精力的に交渉をという気持ちであることを甘利大臣は語っているとのこと。ここで投げ出すことはしないという意思確認といった形。

・また、日農新聞から全国実行委員会での ML で紹介された情報。業界団体向けの自民党報告会では鶴岡主席交渉官も出席して、「年内妥結は無理だと認めるとしても、閣僚として TPP 自体の成就も危うくなるという危機感が閣僚、首脳で共有された」と報じられた。

※磯田さん（九州大・経済学研究）が 4 つのポイント。

→この業界団体というのはなんだ！自民党の声掛けできている。ここでの業界団体とは自民党 TPP 委員会からの声掛けされた団体。JA、畜産団体？

→市民不在

→政府の主席交渉間がいるということでお眼鏡にかなった団体だけの説明で不公平。自民党は農業団体の支持、幻想により、広範の市民社会より分断されていると指摘。クローズな場で特定の政党が特定の団体との説明会はおかしいと指摘するべき。

◎実行委員会の動き

・実行委員会からの情報がなく停滞気味。シンガポールやマレーシアでの交渉会合が行われると、業界の説明会が開かれ、その際に実行委員が参加している。しかし中身のない説明。

・ここに来て、都道府県主催の説明会を活発させるという話が実行委員会で上がっている。政府の TPP に関する HP を見ても説明がなく、事務局の武田さんによると、都道府県

のことで知らないと政府はコメント。各県の HP で探さないと難しい。そんな中、生協など関連団体などに声をかけて、大阪府に要請したところ、8/18 に説明会を開くことが出来た。関西からの質問をその際に出している模様。資料では大阪実行委の質問を記した。

・TPP 交渉、日米並行協議などの情報公開の回答は納得できるものでなかった。日米並行協議は外務省が窓口なので、答えられないということだった。しかし、政府に何もしないというより、政府の担当官が大阪まで来て、市民が質問できる機会となったので、意味のあるものではあった。

・それから、TPP に関する集会も東京中心で行われている。9/27 に TPP 全国交流集会を開いている。その際の報告者として、東京大学の鈴木宣弘さん、PARC 内田聖子さん。近藤さんの感想としては、説明の大半のことはメディアですでに知られているものばかりで、実のあるものではなかった。

・このときに、政府が政府に対する意見要望があれば出してくださいという話があって、11/17 に意見書を提出。内容は、物品市場アクセス関連。為替条項に関しては貿易協定に関係ないので、断固反対という声明を出している。政府は意見募集をしているので、HP で公開されている。以前は、たくさんの団体から寄せられていたが、最近では数団体しか意見を出していない。

◎全国実行委員会、今後に向けての動き

・11/22～24 に鳥取で合宿。今後の動き、進展の予測の話し合いをして、実行委員会の動きを検討する予定。

・ひとつは、自民党が業界団体に説明会をしたことについて、指摘。

・8/30 のスカイプ会議では、都道府県開催の TPP 政府説明会について、愛知県でもやれないか？ということが意見として上がった。名古屋の実行委員会だけでしていいのか？その効力がどこまでなのか？担当部署がどう言う対応をするのか？できれば、同意見の他団体、業界団体との連携が出来れば、働きかける力があるとは思うのだが、その点では連携が出来ておらず、力不足であるという趣旨の回答をしておいた。とりあえずしのいでおいたという形。このメンバーで検討してみてはいかがか？とも思う。

◎ここまでの報告についての質疑等

・近藤さん：

「へっちゃらネット」が目指すものは「TPP が成立してもへっちゃら」と言えど、こういう交渉の現場とか、そこで何が焦点になっているか、そのあたりのことが遠い気がする。断片的に拾ってはいるものの、継続的にウォッチしている訳ではないので、どこから動いていいのか？自分が何をするのか？というところで適切に結び付けられない。

そういう意味では、今日のような集まりで関心を寄せながら、評価していくしかない。そうしないと、焦点が合って来ない。同じ情報を聞いていても、人によって思いつくことが違うので、それを交換し合うことが大事。
愛知県の政府説明会要請の件で、事務局・武田さんに聞いてみたら、愛知県に言うだけだとのこと。武田さんによると、都道府県は TPP に限らず他のこと（政策課題？）も扱っているので、慣れているそう。政府側も説明会については都道府県にもぜひやってほしいという姿勢でいるそう。会場の確保も都道府県側にそうした会場があり、心配しなくていい。そんなに大変ではないとは言われていた。
そうなると、そこで説明に来た担当官に何を言うかが大事。生協とか、この地域で TPP に関心がある、問題だという団体をあまり知らない。そういうところとつながりを作る意味では、やってみてはいいと本当は思う。生協とか、横のつながりを広げるつもりでどうだ？
愛知県では、TPP で得するところが多いかもしれないので、TPP 反対というスタンスで横のつながりをつないでいけるか、それ自体は難しいことだと思う。一方で、農とか食とかで考えるところは大事で、そこだけで閉じるのではなく、それを横のつながりの中に関連させていくという意味では、（大変だけど）やってみてもいいといい。

・石川さん：
最初の一宮の交換会では、生協のお勤めの鈴木さんという方に ML へ入ってもらった。そういった方には攻めどころとしてはいいのではないか。
それと、その時の意見交換会では、強い意志を表明されていたので、そういう人々とつながっていくことも大切。例えば、なごや生活クラブ、にんじん CLUB、など、つながりが濃くはないが、つなぐこともできる。

・近藤さん：
あと、感想としては、アメリカも一枚岩ではない。実際そうなるとだれが TPP を推進したいのかがよく分からないというのが感想。企業、投資家の利益と考えたほうがいいとは思うが、誰がどう動いているのかが分からない。法律家が政策活動に影響を与えているらしいが、それがどういう人なのか？
日本の側は、政府に対して説明を求めるということをしているが、実は政府は何も考えていないかもしれないという気がしていて、交渉に動いている人は官僚で、官僚はそこでの利益で動いていて、それに政治家が乗っかっているだけ。そして説明会では、政府のせいにした官僚が語るので、誰も責任をとらない体制であるように思う。
そこで、何を考えるべきかというと、本当は自民党の政調会長とかに聞いてみるとかいいと思うのだけれど、それが可能なのか？自民党が以前に反対だったけど、なぜ反対な

のか？今どうなっているか知っているのか？と、そういうように自民党がこのままではヤバいのではないの？と働きかけると意味があるのではないかと思う。自民党に働きかける機会を作ったほうがいいのではないかと思う。全体として漠然とした感想だけど、西井さんからの報告を聞いて思った。
つながりを作るために、都道府県の説明会に価値あり。情報公開を求めるという趣旨でやればできると思う。実際に開くときに、ちゃんとした説明ができないと意味がない。賛成派と一緒に意見交換をするとよいかも。

◎途中参加の各務さん自己紹介。
各務原市から来た。「重ね煮」ということをしている。TPP に関しては、「日本のリンゴがおいしいことを知っているので、反対に日本のお米や農産物を売り出すチャンスだ」という人（重ね煮の師匠）もいたので、勉強になった。

◆13：55　持続可能なビジネスの胎動に耳を澄ませ
～対談：永谷香さん（かおりん）×石川さん
石川さん：
ここまでは TPP 勉強会・自主講座ということで、TPP のことで話が進んだ。TPP のために活動するという場ではあるけど、自分の意思、自分の足元をしっかりと固め、TPP につながることに対して日常からどう動くか？ということが大切。そういう意味で、自分たちの基本となるところはどこか？ということを考えてみたい。
対談形式で進めていくが、途中で質問があれば、その場でどんどん聞いてもらうという形で進行したい。
まずは参加者各自で自己紹介を。

・近藤さん：なごや自由学校所属
・てっちゃん：鉄井です。
・佐藤玲子：あいちコミュニティ財団所属
・滝：昨年まで F カフェ委員長、NGO センター連携強化担当
・伊藤さん
・川野さん：もともとはボラみみという団体で活動していました。
・小池達也です。
・西井さん：NGO センター理事長、NCPC 所属
・石川さん：介護の勉強をしている。介護の仕事は、人とのかかわりをどうやって生むか？という仕事だと思ってやっている。人との関係が違った形でつくれる仕事。

石川さん：

名古屋 NGO センターで ESD ファシリテーター育成講座に参加し、農業に関わっていることに注目して永谷香さんを本日のゲストに迎えた。はじめに農園の様子についての話から。

かおりん：

永谷農園を運営。御嵩町の場所を知っていますか？可児市の近く。

就農したのが 2011 年の春。主人のほうが御嵩町の前沢にゆかりがある。御嵩町の一番端の山奥。御嵩町の人もあまり来ないところ。町の中心から離れたところ。

自分の農園で作った農産物を売って生計を立てている。役場で働いてはいるもののパート。農園は野菜が 6 反、米が 1 反。※1 反（100m×10m）全部をフルに使っている訳ではなく、二人で作業していることもあり、休ませているところもある。

石川さん：

機械を使っているかどうかについては？

かおりん：

大型のものは使ってないけど、畝をならすだけの機械はある。基本的に畝は固定。

品種に関しては同じものをたくさんではなく、多品種少量。50 種類ほど作付け。

シンクロナス、長ナスと、ナスだけでも種類があり、それを含めると 100 種以上。多品種少量の理由はリスク回避。例えばキャベツを単作した場合、何か病害虫、自然災害があった場合、全部ダメになる。一方、有機農業・多品種少量の場合は、トマトがダメだったけど、アマナガが良く取れるといった具合のリスク回避。多様性という意味で、いろんな野菜がいろんな場所で混在。ある場所では害虫となる種が、あるところでは薬虫になるということで、有機農業では（虫も）有効となる。

石川さん：

農薬は使っていないのが有機、薬や化学肥料は一切使っていない？

かおりん：

農薬や化学肥料は一切使っていない。

周囲は休耕田がたくさんあり、雑草すら生えないというカチカチの土地。どう見ても生き物がいない。そういった土には何も育たない。そこに堆肥と炭を入れなければ、ダメ。

エサも自給している平飼いの養鶏場があり、豚の飼育もしていて、そこから鶏糞などを

もらってきている。

石川さん：
農園を訪ねた時、トイレを使わせてもらった。変わった形。排泄物を堆肥として使うようになっていましたね。

かおりん：
一昨年、コンポストトイレを作った。合併浄化槽地域で、浄化槽を設置するのに市の助成を受けても 50 万かかる。一ヶ月くらいかけて、コツコツ、漬物のバケツで、水分と分離できるよう、おがくずを吸収剤として堆肥を作っていた。自分たちが日々食べたものが畑に帰るという循環のリサイクルが理想。
しかし、よく家にゲストが来て、その方たちが薬や抗生物質を飲まれていることから、それが畑に入ってしまうって、それを堆肥にするのは無理（有機ではない）ということで、今はやめている。乾燥した形にして、ゴミにするようにしている。

石川さん：
話を聞いて、本当にいいものだと思って取り組もうとしても、人工のモノが混ざってきていて取り組めないという矛盾も感じている。
今回のテーマとして考えている「人と人の信頼」という意味では、作物を買ってもらっている会員さんとのつながりについて聞かせてもらいたいが。

かおりん：
20 軒くらいの個人とつながっている。購入者を会員さんと呼んで、お客さんとは呼んでいない。土岐・多治見周辺の地域に軽トラックでお届けする。プラスチックに 10 種類前後の作物を会員さんの数で割って配達。キロ単価で売る。換算表（？）があり、人参だったら、1 キロいくらという形で決まっている。

石川さん：
計画的には収穫できなくなるときについては？

かおりん：
今年ピーマンが取れて、台所にあふれた。畑の状況に合わせて食べてほしいと思っていて、私たちは「押しつけセット」として売りつけている（笑）。しかし、会員さんはそれを完全に理解してくれていて、受け入れてくれる。その時にしか取れない野菜だから、その時に食べてもらう。

石川さん：
聞くのと実際にやるのとは違う（大変なことだ）と思うが、これが普通と思っていると伺った。

かおりん：
5 年目ですが、日々やっていて、今は畑なしの生活は考えられない。畑が自分たちの一部になっているので。そして、会員さんとのやり取りも暮らしの一部。麦も米も野菜も自分たちの家にあるという暮らしが完全に普通になっていて、会員さんには「全部そろっていてすごい」と言われるが、そうかな？と思っている。

石川さん：
「へっちゃら」な暮らしということ。外から強制されてではなく、自分たちの足元、自分たちにできることを自分たちでしていくことを「へっちゃら」とすると、永谷夫妻はそれを暮らしの中でしている。一般には、それを趣味でやっていると捉えられがちで、世捨て人、世間と隔絶と見られるかもしれないが、社会とつながっているという意識はしっかり持っている。

かおりん：
自分たちにとっては当たり前で、社会ともつながっている。

参加者からの質問：
畑 6 反とのことだが、自家採種はその中のどれくらい？

かおりん：
6 割程度。F1（1 代交配種）は（種）を取らない。しかし、自家採種の作物はどうしても発芽率が悪い。その辺のバランスが難しい。蒔く労力と発芽率を対比した際の効率の問題。種取りのタイミングを見極められていない気がするので、そこを高めていこうとしている。
購入する種については、在来種、固定種を扱う種苗会社から主に買って入るものの、発芽率の関係で、一部大手のもの（サカタやタキイなど）も購入する場合がある。

同じく質問：
ある時、多治見の商店街でかおりんの話になった。有名人みたい？そういった会員さんとは、どうやって知り合いになったのか？

かおりん：

最初は口コミ。（夫の）おじが地域に居たけど、販路の開拓が（そこまでは頼れないと）気になっていた。野菜を作れるけど、販路を確保することが新規就農者の悩みでもある。はじめは需要がないのでは？と思って、名古屋の友達に出していた。しかし、田舎は畑を持っていても活かしていない。しかも有機なんてやっていないということもあり、HPを見て突然やってきた人もいて、躍起にならなくても、自然に会員さんが集まった。

20 軒のうち、5 年ずっと会員のところもあるし、そこからのつながりもあるし、また、（購入を）お休みしている人もいる。（地域的に）陶芸家さんが多いので、アートな人、オーガニック・レストラン経営の人も。アイリッシュ・ミュージシャン（？）も。

同じく質問：

20 軒の数についてこれから増やす予定？

かおりん：

増やしていくつもりはあまりない。というのは、二人で出来る範囲が決まってくるから。増やせばいいという話ではなく、そのせいで責任を持って渡せない作物になってしまったら、本末転倒。きちんと理解してくれている人に、自分たちの手が届く人たちに届けたい。幸い、食べたいので待っている日という人もいる。40-50 軒にしたいとは思っていない。

石川さん：

会員の人たちのとのつながりで、おカネ以外のつながりや、会員同士のつながりとかは？

かおりん：

いろんな業種の方たちがいて、その方と交換、影響されるものは、アートな感性。野菜の色を面白いと言ってくれたり、自分たちにない視点でいろんなことを見てくれたりしている。パティシエとは、多目に作っちゃったケーキと交換したり、逆にこちらが多くもらってもらったり。

お店が会員さんで家族経営というところが多く、エリア的には車で 30～40 分、往復で 1 時間程度。そのうちに名古屋で売るのをやめた。地域で小さく売るのが理想。ただし、配送ルートから外れちゃう人でも、やっぱり欲しいという人がいて、その方は美濃加茂だけど、毎週来てもらっている。

石川さん：

会員さんはただ買うだけでなく、永谷農園とかかわりたいのだと思う。味のほうは、どういう反響？

かおりん：

野菜がおいしいということが一番大事なことだと思っていて、まずは五感で感じてもらって、さらにそこから広がるものが大事。有機 JAS でも、スーパーに置いてあるものなど、味がない有機野菜もあり、人間と同じで、有機肥料を与えられすぎていても味はない。厳しい環境でたくましく育った野菜は絶対おいしい。見てもすぐわかる。おいしいことが絶対。

石川さん：

生き方の面で、永谷さんの生き方を丸ごと受け止めてくれる人が会員さん。その夫妻の生き方がどうやって培われたかを聞かせていただけたら。

かおりん：

私自身は、東京出身。恵泉女学園の文学部。シャプラニールの理事である大橋正明さんほか、PARC（アジア太平洋資料センター）の立ち上げに関わった先生にも指導を受けた。大学へは国際協力をしたくて入った。海外で国際協力の現場で働きたいと思っていた。

入ってみたら、1 年生から必修で畑を 1 年間やらないと単位をやらないという大学。なぜ？と思っていたが、そんな中で自分の国際協力という形がだんだん変化していった。大橋先生の影響。ゼミ生ではなかったが、「あなたたちは途上国の人たちを助けたいと思っているだろ？」という問いに対し、そのとおりの自分は「食糧援助など、そういう途上国の人たちの貧しさは自分たちが作っているかもしれない」と言われ、それから必修の畑、園芸が意味のあるもので、貧しい人を助けたいということを私はいったいどの目線から考えていたかということに 1･2 年生の時に気づいた。上から目線ではないか？自分の足元をしっかり、地に足の着いたものでないと国際協力の意味がないものと。

その後、タイの山岳民族と 3 年生の時に過ごし、焼き畑を学んだ。完全に自給だった。その暮らしも自分に影響した。わたしもこうした地に足がついた生き方をしたいと思うようになった。緊急援助も必要だけど、自分は自分のできることをしっかりしようと思った。

石川さん：

そのあとで、その経験を深めるという意味でアジア学院へ行った。その時の様子、なに

学んだかというところは？

かおりん：

タイから帰ってきて就活は諦めた。アジア学院はボランティアなら 2 最長 1 年までいられた。栃木の那須塩原にあり、毎年海外 15 カ国から研修生が 30 人くらい集まる。1 年間研修をするのだが、自分たちの手で食べ物を作り出し、持続可能な社会とは？ということを考え、農村のリーダーを育成するというユニークな学校。春から入学した。

（アジア学院の写真を回覧）

2008 年。主人は当時職員だった。ボランティアと育成スタッフという立場。来ている学生というのは、本当の意味での学生ではなく、自国の地域ではすでにステータスもあり、年齢で言うと 30～40 歳くらい。講義を受け、畑を耕し、家畜のお世話をするという毎日。

石川さん：

アジア学院に来ている学生は、国へ帰るとしっかりした立場である。そういうところのむずかしさは？

かおりん：

学生さんは、地域も人種も宗教も何もかも違う人々で、学院内は世界の縮図みたいなところ。唯一、「食を作り出す」という共通点を持って生活する。バックグラウンドの違う人々が過ごす中、いろんな葛藤がある。自分の素のままでぶつかり合うということ、それこそが本質的に人がつながり合うことだと思った。アジア学院は「共に食べることが共に生きていること」ということがシンプルに理解できるところ。畑を始めるうえで原点になったところ。

石：信仰の違いについては？

かおりん：

牧師の学生が何人かいた。キャラクターが違い過ぎる。ある時、「香には一つ足りないところがある」と。アフリカの牧師だった。個性的だし、すごく強いことを言ってくるガーナの牧師。「何を信仰しているのだ？」と聞かれたので、「八百万の神」を説明した。いろんなものにスピリットがあり、自然の中の一つ一つに神が宿るという話をした。そうしたら、「そんなはずはない、すべてのものが父が創った」と反論。そんな経験は今までなく、ニラの除草をしながら、そうした喧嘩をしていた。そういう感じで、イスラムもヒンドゥーとかも。そういうところが一人ひとりの勉強になる。相手のことも分か

る。
その人とは修了のとき、涙を流しながら別れた。腹を割って話した。みんな学生が帰るときは号泣だった。

石川さん：
宗教が違うと分かり合えないという印象だが、生きるために食を分かち合う立ち位置から、分かり合えてしまうのがアジア学院。

かおりん：
フェアトレードに取り組むフィリピンの小規模のコーヒー農家さんの学生さんとは、今でもお付き合いがある。

石川さん：
それぞれの学生さんの帰国後のことで、問題もあったとか？大規模化など。

かおりん：
一人の学生さんのところは、大きな農場で需要に応えようとして、ちょっと薬というか、条件に当てはまらない作り方をその組織でしてしまった。需要が高まるのはいいが、買うほうがそれを分かっているかが疑問。

石川さん：
収穫の結果を分かち合うということを疎かにするのが需要に応えること。

かおりん：
おカネをベースにすると、そうなる。おカネが悪とは言わないが、おカネが目的になると何かが変わる。おカネのために大規模に有機 JAS というやり方もできるが、味も変わるし土も壊れる。それは意向に沿わない。

石川さん：
食っていけないので、どうしても量をこなすという気持ちも分かる。大型機械や化学肥料を入れ、JA から借金している農家も知っているけど、考えが根本で違う。それを自分の暮らしでやっていけるかが不安で、できないと思っていたけど、永谷農園は、それができていることが自分にとっても大きなポイント。
そうしたバックグラウンド、これらを踏まえて御嵩にやって来た。そして、御嵩に来て、今のイメージ、感覚、地域に暮らすという意味で、地域を大切に暮らすということはど

ういうこと？

かおりん：

地域（の理解と協力）なしでは畑をやることはできない。水がない、流れが悪いところで、しかし水が良いのでみんな米を作る。水の入れたい時期のことをみんなで会議をする。水の会議。勝手に水を引くと水の流れが変わってしまう。

我が家は変わったことをしているけど、みんな暖かく、がんばれと励ましてしてもらえている。地域行事も、お祭りも、掃除も、そういう土台があって、話し合いもできる。そうして、その土地にあった畑のこと、稲架（はさ・はざ）の掛け方があり、それを聞いたり、そこでしか育たない在来種の種ももらったり、地域で生きるという意味は、それがないと成り立たないということ。それが地域で生きること。

石川さん：

多くは、いきなり空いた土地で自然農法をやっちゃうことをしがち。しかし、地域の人と協働し合ってやるということが大事。畑について、夫妻で一緒にやり始めて 3 年目くらい。その時のお大変さのお話を少し。

かおりん：

3～4 年目にかけて、本当に何も取れなくなった。一般に有機農家の壁だと言われているのがその 3～4 年目あたり。その通りそうなった。それは土が変わるとき。虫たちも含めて、土がバランスを保とうとするとき。

達成点を求めて収量のデータなど、ふり返りをするのだけれど、何も成果がなく、農作業もつらい、お金もない、精神的につらい。そんな時に祖母も亡くなり、実家も遠い。こうした暮らしに価値があるのか？と夫婦で落ち込んでいた。いろんな打開策を考えて実験もしてきた。切り詰めもしてきた。そのうち、なんとなく上昇。それは、土が変わってきたから。それを越えると、今度はどんどん土が勝手に変わって、よくなってきた。痩せた土地だったのに、土がフワフワになった。野菜は土の上にできるので、土が良ければ必ず良いものができる。

石川さん：

弱っていた時が ESD ファシリテーター育成講座受講の時だったということも？

かおりん：

弱ってもがいていた時に、ESD ファシリテーター育成のチラシをもらった。忘れてしまっていたけど、以前から ESD という取り組みは知って、これは行くしかないと思った。

そこで出会えた人たちも大きな力だった。自分のことを「それでいい」と言ってくれる人がいた。背中を押してくれた人がいたことが大きかった。ESD で息抜きができる時ができたということ。

石川さん：
どん底に落ちたお蔭で、ESD に出会った。何ごとも偶然ではない？

かおりん：
あれだけのどん底に居なかったら、もがかなかったし、もがかなかったら ESD にも出会わなかった。ホントに苦しくて、食べるものもなかったから、どん底時代以前にも十分にやっていたはずの資源の活かし方術も、さらに上達した（笑）。

石川さん：
どん底を味わうと、人が分かる。エゴを捨てないということかと思う。
さて、現在地域でやっていることは？

かおりん：
役場の地域振興課で放課後の児童育成について取り組んでいる。お世話になっているので、地域に貢献したい。前沢という小さい地域で人々とつながっているけど、もっと貢献したい。環境保全地域と指定されているので、環境モデル地域を目指したい。まだ、その途上にあるので、自分たちのやっている畑が参考になればと思っている。
あと、地域の子どもたちのこと。発達障害というか、無秩序の子どもは増えている。発散する場所が学童保育しかなく、親が忙しく先生も忙しく、そういう子どもたちが健やかに生きられない環境。御嵩でさえもそれが保障されていない。健康に生きることについて、食に関わることで形に出来ないかと考えている。議員さんとも少しずつ関わって、変えていけたらと思っている。

石川さん：
会員さんとのネットワーク。地域での取り組み。それぞれの人が個性を持っている。それぞれの人が持っているものについて感じることを。

かおりん：
信頼してつながるということは大事。人だけでなくて家族単位でもつながっていて、日々の仕事も、オクラをおいしかったと言ってくれた人の顔を浮かべながら仕事すると違ってくる。血の通った人間関係。健全な形の人間関係の作り方を自分たちが示せれば

と思う。

石川さん：
体験農業も子どもたち対象にしているとか？

かおりん：
おじいちゃん、おばあちゃんが畑をしていても、畑の経験をしていない子どもがいる。御嵩に住んでいるのに、畑を見て「田舎」という子どもたち。親がそういう環境を与えていない。映像や話ではなく原体験としての環境教育。そういう事をしたい

石川さん：
生きる力を感じる。「へっちゃら」な生き方として、一番求めていることを話していただいた。ありがとうございました。

◆15：20　休憩

◆15：40　ワークショップ①　グループ・ディスカッション　～進行：石川さん
◎かおりんの話を聞いてみて、それぞれに自分自身を振り返る。（2 グループに分かれる）そして、自分の日々暮らしの中で大切にしているもの、人との関係をふり返って、どんな関係を築き、何を大切にしているか紙に書き出し、話し合う。
◎話し合った中から、「人と人との信頼で作られる社会づくり」に向けて、自分にできること、日々の暮らしにプラスすることを各自ポストイットに書く。
◎書いたポストイットはグループでシェアして大きな紙に貼り付ける。ポストイットはグルーピングや関連性を示すなどして、みんなができることなどが見つかれば、それについても話す。
◎グループで話し合ったことを全体で共有

◆16：40　ワークショップ②　グループ・ディスカッションの共有　～進行：石川さん
グループ 1：
何人かが共通で考えていたのは、各地の実践者、現場、アジア学院でつながっている人々の地域を見直していくことが大切ということ。一方で、どこを自分の地域とするのかも大切。
さらに、今のつながりをもっと複雑に深くしていくことも考えること。自分たちの地域の中で ESD ファシリテーターなど、自分の得意なことを活かして関係を強くしたい。

資本主義を生き延びるためには、ギフト・エコノミー。それを自分たちも再認識するし、その認識を広げていきたい。

グループ１への質問：

贈与経済（ギフト・エコノミー）を具体的に？

回答：

贈与経済というのをおカネの代わりに、何かモノ、サービス？とか、違う形で返ってきてもいい。（かおりんの話にあったような）焼き菓子と冬瓜の交換とか。おカネがあまりにも目的になっている社会を変えられるような流れを作りたい。

石川さん：

信頼で動くというのは、ボランティア等を含めて信頼で社会を動かせることだと思っている。例えば、NGO センターの予算の関係のことを思うと、信頼で得られた農作物等の食材を職員の対価とするとか。

グループ２：

・自分の生活を自分のできることから始めてみる。人に任せてしまっていることを自分でやる。
・目の前のことに集中する。
・ちゃんとした生活をすること。信頼を得るためにはそれも大切なこと。
・相手を信じてコミュニケーションする。自分たちと気持ちの近い人を励ましたり、近づけたり、出会ったり、いいところを見つけたりする。
・（目前の品物の）意味が分かること。ついついおカネが（財布が）寂しいと、ジャンクなものを食べてしまう。意味が分からないこと、言語化できないことをしてしまうときは、何がどう自分のモノになっていくか言語化する。

グループ２へ質問：

「小説を読む」とありますが、それはどういうこと？

回答：

「小説を読む」というのは、ある本を読んでここ最近思っていたので。それがどんな本だったか思い出せない…。

質問：

「ちゃんとする」というのは、マジメさ、ストイックさとか、信頼には大事だと思うが、

自分の行動を認められるようにすることは、協働作業の中で自分のやりたいことをやって、それでもぶつかって認め合えるというところが大事だと思い、そういう事からすると、素の自分をさらけ出すのも大事という意味では？と、気になった。

回答：

それは近所づきあいというところで書いたつもりだけど、そもそも自分というものが自分で分かってなくて、だからこそ、人との付き合いの中で自分が分かると言いうこともある。そういう意味で、地域の行事に出て、適当にあしらわらずに、気持ちを持って話をするということで「ちゃんとする」として書いた。面倒なこともちゃんとするということ。

◆16：55　「TOMARIGI」店主・うっつー（宇都宮さん）から発表を聞いて感じたこと。

うっつー：

今日はウロウロしていただけで（ほとんど参加できず）済みません。

この会場の隣で地産地消をテーマにしたお店「TOMARIGI」をしている。なぜお店をここでしたか？というと、人とのつながりが大きい。元々NPO、NGO 活動を名古屋でしていた。その後、泉京・垂井に勤めていた時に、この物件を知って現在に至った。

信頼というキーワードからすると、この大家さんと知り合った経緯からも、その「人とのつながり」だった。信頼できる人だということで、このお店を割りと簡単に貸してくれたという経緯がある。

そういう意味で、いろいろと行動をしていると、人と人を結んでくれるキーパーソンと出会うものと言える。今度は、このお店を通じて、自分が誰かに対してそういう役割を果たせたらと思っている。

◆17：05～　今後の各自の目標をカードに記入＆本日の感想

※時間の関係で感想を話したい人、感想を聞いてみたい人に限定で発表。

・てっちゃん

ありがとうございました。

知ってはいましたけど、何となくしか知らず、畑のこと背景のこと、詳しく聞けて良かった。すでに持っている NGO センターのつながりの中にモデルとなる人がいること、持っている環境の中にリソースがあるということが再確認できてよかった。

この（目標を記入する）カード、実は今まで書いてなかった。まともに書いたのは今日が初めて。書けて良かった。カードの内容は、楽なことか、楽しいことかどうかの判断基準について、誰かの苦しみの上に立ったものでないものを楽として、「日々丁寧に暮らしたい」と書いた。

・たっちゃん
詳しく聴いたのは、今日が初めて。かおりんのバックグランド、軸が強いことを改めて実感。今は自分がフワフワした状態。かおりんの軸に相当するものが何かをよく考えなきゃいけないと思った。一方で、考え過ぎてもよくなく、行動すること。事実質問を自分に問いかけることで解消する。
TPP に関しては推奨する人がどう思っているか。アメリカの人だけでなく、それ以外の国のことを調べてみたい。カードにはそういうことを書いた。

・川ちゃん
ありがとうございました。かおりんの話を聞いて、一番思ったのは、キャパを越えてやりすぎないということがものすごく心に残った。やることはやるんだけど、自分の頑張り過ぎない程度、頑張っても、頑張り過ぎなくてもいいような関係とかをつくることが大事なんだろうなと思った。それが自分にとって、何なのかというのが見えてないが、で、ここに書いたことは「一つ一つのことを丁寧に」ということ。

・玲子さん（「カード記入の内容が聞きたい」という声に対し）
一番初め（1 月自主講座）に書いたことと変わっていない。役割を持つということ。ちゃんと生きるということに近道はないということを感じた。ついつい自分がどうしたいと思いがちだけど、（かおりんは）巡り巡って自分にたどってくることをしていると思った。

・かおりんから、本日の感想を受けてのひと言。
今日はありがとうございました。
日々、主人としていることを改まって話すという機会はあまりなく、自分人とってもいい機会だった。キーワード。楽しくいこうと頑張るけど、頑張り過ぎないというのも大事。ふり返ると頑張ってきた。相手が生き物なので、1 日違うと姿が変わってしまうので、働き詰めで、ホッとできる時間がないような日々を過ごしてきたけど、それでは持続可能じゃない。それは作物にも反映されるし、会員さんとの関係にも出てくる。それは（自分のことを反映し、自分が影響を与えるものとして）あたしのとって大事なもの。
今日は、TPP に対し「へっちゃら」にということがテーマ。それは自分なりにどうすればいいのか？というと、「へっちゃら」というためには自分の足で立てているかということが大事。衣食住に関して他人に存しないということ。大きな流れに取り込まれるのではなくて、自分の足で立って生きるということが今日のまとめです。